

## サービスラーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学部2年 中島 佐江子

活動先：NPO 法人 だいこんの花

クラス：野尻 紀恵 先生

夏休みに6日間という言葉にしてみれば短く聞こえるが、様々な意味で深い印象に残る6日間であった。自分が今回サービスラーニングとして活動を行うにあたり、今始まる前を振り返ってみると、全然準備ができていなかったように思う。NPO 団体について詳しく知らず、最初から興味がすごくあったわけでもなかったため、気持ちが高まっていなかったことを今更ながら残念に感じている。しかし、私がお世話になった「だいこんの花」のみなさんは、本当によくしてくださり、最初は辛いと思っていたことも自分が楽しめるようになった。

だいこんの花は、事前訪問に行ったときや連絡を取り合う中で、荒木さんをはじめ、スタッフの皆さんがとても話していて楽しく、ここでなら安心してできると思ったのが第一印象であった。そして、夏休みに活動が始まり、利用者の方とのコミュニケーションをどう図るか、スタッフさんの動きを真似してみようなど、自分なりに努力しながら活動していたように思っていた。しかし、自分が楽しみを持ちながらやっていたかと言えば、必死であったこともあるが、まったくその感情は芽生えていなかったのである。

そんな中、夏祭りの企画・運営をほぼ任せられ、同じ活動先である2人を加え、3人で準備を進めていた。しかし、3人とも自分たちのことで精一杯、夏祭りを成功させることしか考えておらず、他に目を向けることができなかった。夏祭り自体は課題も残ったが、利用者さんをはじめ、「楽しかった」の声が聞け、満足していた。このころには、利用者さんのこともだいぶ覚えてきて、コミュニケーションもスムーズに図ることができ、利用者さんだけでなく、自分が会話を楽しみながらその空間を楽しむことができるようになっていた。これが、自分としての成長のひとつにあげることのできるものである。

しかし、活動を振り返る中で、「辛いことだらけではあったが楽しかった」だけで終わってしまっている自分がいることに気付いた。もっとだいこんの花が掲げる理念や何を一番心がけているのかなど、どんな心持ちであるのかを追究すべきだったのではないかと、自分はそのことを聞いていたら、もっと自分なりに考えを深めることができたのではないかと後悔の念が生まれた。このサービスラーニングの活動から、私は自分が楽しいと思えたことは一つの成長ではあったが、まだ先のものを目指すべきサービスラーニングとしての活動だったのでは、という気付きが生まれた。

NPO 団体として、非営利で活動をしていることがまず、社会活動・地域活動の一つになると考えているため、あまりだいこんの花を取り巻く活動に目を見張ることが無かったように思う。それも一つ課題にあげられることである。私たち地域福祉コースの学生を、受け

入れてくださる NPO の団体のみなさんは、それぞれのつながりが強く深いものであることは感じ取っていたが、そのつながりの深さを追求するための質問などを自分たちからしていくまでに至らなかったことも後悔の一つになっていると思う。

だいこんの花のスタッフの皆さんは、その地域に住んでいる人が多く、地域のことも知っているからこそ、利用者さんとのコミュニケーションが取れているということもあるということが分かった。私は愛知県が地元ではなく、ここの地域のことについては何も知らない状態でいたため、最初のコミュニケーションが上手くいかなかった。自分の育ってきた家庭のような空間づくりを基本としている活動だからこそ、地域のことももっと勉強しておくべきだったという反省点も生まれた。

利用者の方は、戦争を経験している方も多く、自分が経験していない立場として話を聞くだけでいいのかと思うこともあった。戦火の中、逃げ惑った話や、家族と小さいうちに離れ離れになっていたり死別していたりと、辛い経験も語ってくださる利用者さんもいた。辛い体験でも経験していない立場として自分にどんな反応ができたのか、もっと考えるべきであると思った。

今回、サービスマーケティングの活動を通し、自分がただ活動しに行っていたという感じが強く出ていたことに振り返る中で気付いた時は、とてもショックであった。NPO の活動やどんなことを目的として行っているかなど、勉強不足で行ったせいもあるが、自分からも興味を持つことを探した上での踏み込みがもっと必要であったように感じた。夏祭りの企画と言われたから、そればかりに集中して成功することだけを考えていた私は、まだまだであると強く思うと同時に、改善していかなければならないと思った。

この活動では、もっと多くのことを学ぶことができたはずなのに、それをやることができなかつた自分に今更ながら腹が立っている。持ち前の精神力と明るさで何とか乗り越えられるであろうという甘い考えは捨て、もっと貪欲に行こうという切り替えができたため、これからの実習に生かせるように思う。一つ一つ、普段の生活ならできて当たり前なことでも、サービスマーケティングの活動では、初めてのことだらけであったため、少しのことでも自分でできたと思えたら、喜んでいた。このような初心は常に忘れずに持っていたい。

研究で空間の役割について考えたが、同じことを、一人でなくみんなで行うという機会は、家の中にいたらなかなか難しいことである。だからこそ、同じ空間で同じ釜の飯を食うかのごとく、一斉にいただきますをして食事をとるなどの行為が必要なのである。利用者の人が心地よく過ごすことのできる空間を作る条件の中に、後悔して学んできたことが生かされるように、今後生活していきたいと思っている。

自分なりに振り返ると、活動中は見えてこなかつたことも浮き彫りになってくるため、今後に生かすためにも最後までしっかり振り返りを続けていきたい。そして、NPO 団体が考える根底のものを何か得るために、積極性も大事にしてゆきたい。